

実況中継「土曜講座」

第12号 2024年11月2日 発行

市川学園 10月26日の土曜講座 於 國枝記念国際ホール

小坂 裕子 先生

「芸術を友に

—文学、美術、音楽に親しむ日々を—」



小坂 裕子 先生のご紹介

東京芸術大学大学院音楽研究科音楽学専攻修士課程を修了し、ショパン研究者として活躍され、「ショパン 知られざる歌曲」(集英社新書)「人と作品 ショパン」(音楽之友社)など、多数の著書が出版されています。

現在は、公益財団法人・市川市文化振興財団理事のかたわら、音楽ディレクターとして多くのコンサートを企画し、若手アーティストの育成につとめていらっしゃいます。

主な講義内容の紹介

第6回土曜講座は、音楽ディレクターの小坂裕子先生より、「芸術を友に—文学、美術、音楽に親しむ日々を—」という題でご講演をいただきました。小坂先生おすすめの作家、美術作品、ショパンの知らなかったあんなことやこんなことを盛りだくさんにご紹介いただきました。小坂先生ご自身が次から次へと好きな作品を生き生きと語られるお姿に大変感銘を受けました。「●●の～が好き」を数多く見つけ、積み重ねてゆくことこそが人生の密度の濃さと比例するように思えます。多くの芸術作品を、自分独自の目線で批評し、解釈することで自らの個性も醸成されることでしょうか。中高生のうちから「ことの葉の森」である図書館にも、美術館にもぜひ足を運んでいただきたい、豊かな音楽を感じてほしい。「芸術の秋」です。この時節、魅力ある芸術作品にじっくり向き合い、感性を高める時間を作ってみませんか？



受講レポートから

- ・ 浮世絵が日本の陶器の包み紙からヨーロッパで広まった、というきっかけを知った。また、浮世絵には、日本人の美意識やバランス感覚があらわされていることを初めて知った。(中1女子)
- ・ 私は読書が得意ではないし好きではなかったが、文学作品のお話を聞いて「本には様々な種類があり、おもしろそうだ」と思うことができた。(中1女子)
- ・ 今回紹介された人物はそれぞれジャンルが違うが、全員に共通することは「自分」を持っており、誰に否定されようと一生涯を自分の好きなことに費やしているというところだと思った。「自分」を持っていることがどれほど大変かを考えると、評価されるべき方だと感じた。(中1女子)
- ・ いろいろな種類の芸術があると思った。それぞれの作品には作者の生い立ちや境遇も影響していると感じた。私は美術部なので、絵の見方にも多様であるあることが分かって良かった。(中2女子)
- ・ 美術についての紹介があったが今まで「絵」を考察したことがなかったので新鮮だった。特に、デ・キリコの作品がマネキンの作品ばかりの奇妙で怖いもので印象に残った。(中2女子)
- ・ 人生の楽しみはこんなにあるのだと視野がグッと広がった。最後に聞いたショパンの曲はそっと心が溶かされるようだった。彼の人生、苦悩、関わった人々を思っ聴くと、なおさらすきに感じられる。難しい作品も最初は分からずとも何度も読み返して味わうということから「はっ」と目の前が開けた。芸術の楽しみ方に正解はなく、完全に理解せずとも「友」になれると感じた。(中2女子)
- ・ どの芸術家も同じような人生ではなく、それぞれ違う人生を歩んでいるからたくさんの作品が生まれるのだ、と思った。絵には描いた人の思いがたくさん詰まっており、きちんと描かれているもの一つ一つに意味があることを学んだ。(中3女子)
- ・ 文学も音楽も同じ芸術であり、共通点がある。ありきたりな物語の流れでも、所々に工夫を凝らし、読者に感動を届けられる。音楽でも昔から演奏されている作品は、各演奏団体によって聞こえ方が変わる。私も自分らしい音楽を追究し、お客さんに感動を届けられるようになりたい。(中3女子)
- ・ 芸術とは「絵」ではなく、「作者の自由」であると思うようになり、面白みを感じた。(中3男子)
- ・ 文学の特徴であったり画家の生涯であったり、それを踏まえて作品を鑑賞すると違う見え方が感じられる。田中一村さんは以前拝見したことがあったが、彼の貧しく苦しいエピソードを聞くと、精巧な景色の絵に裏にどのような苦労や苦悩がにじんでいたかを考えさせられた。(高1男子)
- ・ 美術に興味があるものの、どのように作品を鑑賞すれば良いかよく分からなかった。しかし、今回の講座を通じて「絵画の技法」や「絵画の中のオブジェクトの持つ意味」など様々な絵の楽しみ方があることを知り、美術のたしなみ方というものを少し身につけることができた。(高1男子)
- ・ 芸術について深く考えるきっかけになり、楽しかった。将来趣味として美術館を巡り、様々なことを感じ、楽しめる大人になりたい。(高1女子)
- ・ 小坂先生は音楽、美術、文学など幅広く芸術を愛していらっしゃるということが伝わった。私も没頭できるような何かしらの芸術に出会いたい。作者の生い立ちや人生についても印象的だった。(高1女子)
- ・ 文学・美術・音楽でそれぞれの枠組みを超え、芸術を前楽しむ道筋が提示されていたためになった。浮世絵やショパンなど、なじみの薄い芸術でも向き合うと意外と身近な事柄の関連や各個人の感性が投影されている。芸術は生きるうえで教養として身につけるべきであると再認識した。(高2男子)
- ・ 有名な芸術家たちの作品がなぜ人の目をひくのかわかった。芸術家それぞれに背景があり、それぞれの作品から、たくさんの聴衆・大衆が様々な解釈をしていることで芸術の選択肢は多様だと思った。また、ショパンが苦しみながら作曲していたということは知っていたが、今回あらためてお話を聞き、その苦しみこそがショパンの少し暗く、雰囲気のある美しく繊細な曲の作曲に向かうのだ、ということがわかった。(高2女子)



(文責：武井 大輔 先生)